



森林レンジャーがゆく (114)

トゲのある生き物

森林レンジャーがゆく111号(広報あきる野令和3年10月1日号)で、トゲやハサミを持つ「ヒメハサミツノカメムシ」を紹介しました。今回もトゲのある「トゲアリ」を紹介します。外見は山でよく見かける「ムネアカオオアリ」にそっくりで、頭と腹は黒色、胸は赤茶色です。チョコチョコ動き回る姿を見てもなかなか区別が付きません。たまたま、体に這い上がってきたアリのムネアカオオアリだと思って、摘んで見ると、胸部にトゲがありました。変わったアリだと思い調べてみるとトゲアリでした。

アリは世界で1万種以上、日本においても280種ほどが確認されています。普段、あまり気にならないアリですが、昆虫の中では、ハチ同様に社会性昆虫として、一般の「むし」とはその生活様式が大きく異なります。さらに、このトゲアリは変わった習性をもっています。

トゲアリはあきる野でも確認できます。まずその形が変わっており、胸部の背中側に3対のトゲを持ち、その姿は勇ましく見えます。このアリは、山野で見かけるクロオオアリやムネアカオオアリの巣を乗っ取るかたちで営巣を始めます。春にトゲアリの女王アリが乗っ取る種類のアリを巣の外で襲い、その匂いを体に擦り付けて巣穴に侵入していきます。

上手く侵入したトゲアリは巣の奥に入り込み、相手の女王アリを殺して巣を乗っ取ります。まるでスパイ映画のようなドラマがあります。巣を乗っ取ったトゲアリはそこで産卵し、巣を乗っ取られたアリがトゲアリの卵、幼虫、蛹を仲間のアリだと思って育てます。やがて乗っ取られたアリの寿命が尽き、巣からいなくなると、初夏にはトゲアリ単独の巣を形成します。このような寄生を一時的社会寄生と言います。

このような変わった習性は、いかめしい姿のトゲアリにぴったりだと思います。しかし、怪しまれて攻撃を受けることも多々あるようで、乗っ取りの成功率は低いと言われており、数は少ないアリです。東京23区内では明治神宮の森に唯一生息しているそうです。

(杉野)



トゲアリ